

育苗管理のポイントを再確認し、健苗を育成しましょう

令和5年産の稲作の準備が着々と進み、まもなく田植えシーズンを迎えます。「苗半作」という言葉があるように、稲作において苗づくりはとても重要です。近年、育苗期の気温が乱高下する異常気象が通常となりつつあり、健苗の育成にとっても苦慮されていることでしょう。今一度、育苗管理のポイントを見直し、健苗育成の参考にしてください。

● 育苗管理のポイント

□ 浸種 「コシヒカリ」は積算温度で120°C以上を目標（水温が11~12°Cで10日間）
低温で長期間浸漬しても出芽は良くなりません。水温は必ず確認しましょう。

□ 育苗温度 出芽まで 28~30°C 2~3日
 細菌病予防のために30°Cを超えないようにする。
 緑化 15~25°C 2~3日
 硬化 10~25°C 10~14日
 低温時以外は、昼夜ともハウスを開放する。
 5°C以下の低温予想時は、ハウスを閉め被覆資材等で保温。
 灌水は朝1回、昼に乾いていたら補う。夕方は灌水しない。
 肥切れ症状が見られたら、窒素成分で1g/箱を追肥。

● 苗立枯病の病害別の症状とその要因

病原菌	症状	要因
フザリウム属菌 (白~ 淡紅色 のカビ)	・地際および根が褐変 ・地際およびもみに白~淡紅色のカビ	・緑化開始直後の低温 ・床土のpHが5.5以上
ピシウム属菌 (カビなし)	・水浸状になり、急激に萎凋、 坪枯れが発生 ・地際にカビは見られない	・緑化期以降の低温 ・床土のpHが5.5以上
リゾプス属菌 (白いカビがくもの巣 のように覆う)	・緑化開始時に箱全体が白いカビ で覆われる	・出芽時の高温過湿 ・緑化開始後の10日間くらい までの低温 ・育苗中の過湿
トリコデルマ属菌 (青緑色 のカビ)	・葉の黄化が激しい ・地際および根に青緑色のカビ	・出芽時の温度が30°C前後 ・床土のpHが4以下 ・土壌水分の不足

裏面に続きます

イネばか苗病の蔓延防止に御協力ください

県内においてイネばか苗病の発生が急増しています。本病は発生後の防除ができません。したがって、種子消毒等による適切な防除、作業現場の衛生管理の徹底が必要です。

● イネばか苗病とは（写真）

糸状菌（カビ）である *Fusarium fujikuroi* によって引き起こされる病害で、**種子伝染**します。

育苗時に保菌種子が混入していると、育苗工程の浸種、催芽、出芽時に菌が放出され、健全種子に伝染して発生が多くなります。



写真 育苗中の徒長苗

● イネばか苗病の発生を防ぐために

毎年種子更新しましょう。

種子消毒には効果の高い薬剤を使用しましょう。

温湯消毒の場合は、処理の温度、種子量、時間を必ず守りましょう。

種子消毒のポイントは、「イネばか苗病の撲滅にご協力願います」のチラシ（QRコード）をご確認ください。



New ! 事前乾燥処理による水稻種粉を 65℃以上の高温域で温湯消毒する方法

水稻の種子温湯消毒法において、温湯処理前に種粉の水分含量を 10%以下にする事前乾燥処理を行うと種粉の高温耐性が強化され（金勝ら 2016）、防除効果の高い高温域の 65℃での消毒が可能となると報告されています（伊賀ら 2020）。

● イネばか苗病汚染防止のための作業現場の衛生管理のポイント

ばか苗病菌は、トラック荷台、浸漬で使用する水槽、育苗箱、播種機、ハウスの土壌と資材等、作業現場の至るところで確認されています。以下のポイント（(地独)北海道立総合研究機構）を参考に作業工程全体をきれいにしよう努めましょう。

- 作業場所の清掃を徹底し、稲わら、もみ殻、ぬか、粉じん等が残らないようにする。
- 脱穀、精米用設備等は使用後の清掃を丁寧に行う。これらに種子や使用する機材が接触しないように注意する。
- 浸漬～播種作業は、脱穀、精米用設備から離れた場所で行う。
- 種子は作業場の床に直置きしない。
- 水槽は事前に丁寧に手洗いし、0.0125%の次亜塩素酸塩液等で消毒する。
- 浸漬、催芽中は水槽の上をビニール等で覆い、粉じん等の混入を防ぐ。
- 種子を広げるバットやシート等はあらかじめ洗浄して清潔な状態を保つ。



● 引用文献

- ・伊賀ら（2020）日植病報 86：1-8.
- ・金勝ら（2016）日本作物学会第 241 回講演会要旨集 241.
- ・（公社）茨城県農林振興公社「イネばか苗病の撲滅にご協力願います」（<https://www.ibanourin.or.jp/> 2023 年 4 月 13 日閲覧）
- ・（地独）北海道立総合研究機構「ばか苗病菌汚染防止のための注意点と対策」（<https://www.hro.or.jp/list/agricultural/center/seika/bakanae/index.html> 2023 年 4 月 13 日閲覧）